

児童発達支援 事業所における自己評価結果（公表）

公表： 2023年 2月 15日

事業所名 こどもサポート教室「きらり」岡山円山校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3	1	児童が集中できるようパーティションで句切る。運動は広くスペースを広げて事故を防ぐ。	指導訓練室以外の部分では職員の目が届くように構造化を行っていく。
	②	職員の配置数は適切である	3	1	保護者対応中も1人は来客時やFB中に対応できるよう配置している。	事業所のスペースが広く使用していないスペースがあるため小集団などに利用していきたい。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	3	1	児童の行動範囲をパーティションで句切ることで導線を確認している。	利用児童が増えた際は再度検討していく。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4		感染症対策である消毒手洗い、換気なども含め実施できている。	運動を行う際訓練室は狭くケガにつながるようスペースの確保が必要になる為注意している。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	3	1	毎回個別支援計画の作成に関しては職員で会議を行っている。	支援計画以外でも保護者対応や広報、研修など広く行っていきたいと考えている。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	2	2	FB時や事業所内相談等で意向を把握しすり合わせを行っている。	開所して間もない為しっかりとした評価は今回初めてになるが貴重なご意見を参考に改善につなげていきたい。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	1	3	まだ開所して間もない為実質出来ていないが会社としての取り組みがあるため今後は行っていく。	この評価表を踏まえて今後会議を行いHP上で公開する予定。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	3	まずは事業所内や市内の「きらり」にて行っている。	今後は発達支援研究所などを活用しよりよい療育を展開していけるようになりたい。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4		感染症、虐待、身体拘束、虐待防止委員会、発達支援研究所、B内の研修委員会より月1回以上の研修を受講している。	引き続き研修の受講しながら知識をアップロードしていく。
適切な支援	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4		遠城寺やNCプログラムを使用しました、保護者からのお話を踏まえながら行っている。	今後もアセスメントツールを活用しながら保護者の方のご意見や関係機関との連携を適時行っていく。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	1	遠城寺やNCプログラムを使用している。	まだ使用したことのない職員もいるため使用方法やツールを確保していく。

の提供	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4		基本的には発達支援の部分を中心に行っている。その上で必要であれば「家族支援」や「地域支援」にも触れていく。	事業所内での療育のみではなく児童をとりまく家族や地域にも目を向けた個別支援計画の作成が今後課題になってくるため、その児童に合わせた支援方法を研修、園訪問などから模索している最中。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4		プログラム作成後実施までに児発菅が確認している。	個別支援計画はその都度見直しをしている。6か月というくりこりに縛られずに柔軟に作成、変更ができるようにしていきたい。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	4		職員同士で事例検討会も実施し担当以外も検討しているようにしている。また、プログラム作成後は児発菅がチェックしている。	今後も担当指導員のみでプログラムを作成するのではなく事例検討会や毎朝のミーティングでの振替りから情報交換していく。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4		1番にその子が楽しいかに重点を置いて幅を持たせてプログラムの作成を行っている。	今後も1人1人が楽しく学べるよう臨機応変・柔軟にプログラムに幅を持たせていく。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	2	2	現在は個別療育に	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4		朝礼にて注意喚起や手伝ってほしい部分など共有している。	療育の時間が1分1秒でも無駄にならないよう事前に担当指導員を中心に1時間のプログラムを練り上げている。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4		毎回次の日の朝の朝礼で共有している。	今後も担当以外の職員も様々な児童に触れ、関わることでたくさんの方の目を見て療育のプログラムに反映していくようにする。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4		その日の内、遅くとも3日以内に入力するようにしている。	記録は客観的にまた他職員が見て引継ぎしやすかったり内容がわかりやすく要点をまとめられるようにしている。（研修にて）
	⑳	定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4		最長でも6か月以内にはモニタリングを行い更新している。	新規のかたは3か月程度で更新していき最新の発達段階に合わせた計画を作成していきけるようにしていく。
関係機関や保護者との	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4		基本的には児発菅と担当指導員で参加している。	積極的に外との連携を取りながら加情報共有をする場に参加していく。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	1	3	まだ完全にはないが少しずつ実施していく。	保育所訪問、他事業所との連携は密に行い日常の児童の様子をプログラムに反映させていく。
	㉓	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		4	医ケア児の利用は現在ないがもし利用希望の方がおられたら積極的ににかかわりたい。	医ケア児の知識を勉強していく。（研修にて）

連携	⑳	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		4	医ケア児の利用は現在ないがもし利用希望の方がおられたら積極的にかかわりたい。	医ケア児の知識を勉強していく。(研修にて)
	㉑	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	1	園訪問は現在少しづつ実施していつている。	今後も積極的に実施していく予定。
	㉒	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	2	2	保護者のニーズがあれば就学する小学校に訪問し事前に情報提供をしていく。	就学に向けて保護者の方や児童の不安が軽減できるように移行支援も検討していきたいと思ひます。
	㉓	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	1	発達支援研究所での研修や中区・東区の部会を通して助言や研修を行ってもらっている。	今後も地域との関わりと研修の機会を大事にしていく。
	㉔	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		4	連携として訪問はさせてもらっているが活動の機会はない。	
保護者への説明責任等	㉕	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3	1	こども支援部会は管理者が参加している。	今後も参加していきながら必要な情報や地域連携を行っていく。
	㉖	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4		毎回FBの時間に聞くようにしている。	保護者の方も話しやすいように信頼関係が構築できるように努力している。
	㉗	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	2	2	その都度助言や対応方法をお伝えしているがペアレントとしては実施していない。	実施に向けて職員の知識や技術の向上をし時折保護者会のようにしながら実施していきたい。
	㉘	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4		契約時に説明している。	いつでも見直し、質問できるように回覧している。
	㉙	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4		更新前に事前にお話を伺いその上で作成し説明をさせていただいている。	変更や疑問点があればその場で伝えていただいている。可能な限り児童の発達段階を重視した個別支援計画作成に努めている。
	㉚	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4		FB時や事業所内相談として希望があればすぐ対応している。	今も定期的にとどの保護者の方でもお話しできるように声をかけていく。
	㉛	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4		感染症もあるが定期的に実施できるようにしていく。	親の会などに参加していく。
	㉜	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4		そのときは検討させていただき旨を伝え、翌日必ずミーティングで共有し対応方法を模索している。	申し入れに対して指導員がその場で安易に回答しないよう必ず職員全体の会議の場で共有し対応をみんなで検討していくようにしている。
	㉝	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4		HP上でブログを作成しその都度発信している。	今後も活動内容をブログで発信しながら「きらり」通信としてみなさんに見えやすい形で発信していく。

	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	4		鍵付き書庫にて管理している。	今後も個人情報については慎重に取り扱いを行っていく。
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4		1人1人に合わせてコミュニケーションツールを作成し使用している。	どの都度必要であれば1人1人に合わせて作成、活用していく。
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		4	感染症を懸念し実施できていない。	町内会や夏祭りを通して展開していく。
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4		毎月防災訓練を行い職員間で対応方法を検討している。	マニュアルに対して保護者の方も見ることができるように掲示している。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4		毎月防災訓練にて実施と訓練を行っている。	避難場所の確認や不審者対策など様々なテーマで毎月実施している。
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	4		面談時に聞き取りを行い、必要な処置の確認をしている。	必要であれば支援中保護者の方に同席していただくようお願いしている。
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	2	食事の提供は行っていないが手が触れるものは注意している。	アレルギーに対して小麦粘土やスライムなど作成する際は保護者へ確認している。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3	1	事業所内の職員には観覧している。また岡山県内のきらりでも共有している。	ヒヤリハットは積極的にほこくしていく中で大きな事故を防いでいく。
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4		マニュアルの作成や虐待防止委員会からの研修が毎月ある。	引き続き虐待に対して研修を実行していく。
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4		契約時に説明を行っている。	不安であれば母親も同席していただくようお願いしている。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

児童発達支援 保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表：2023年 2月 15日

事業所名：こどもサポート教室「きらり」岡山円山 校

保護者等数（児童数）： 10名 回収数： 4名 割

合： 40%

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	4					
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	4					
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	3	1			玄関前の階段が子どもによってはハードルが高そうだがいいトレーニングになっています。	必ず職員か保護者の方で見守りながら上り下りしていただくよう注意していきます。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	4					
適切な支援の提供	⑤	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	4					
	⑥	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	4					
	⑦	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	4					
	⑧	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	4					
	⑨	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		1	1	2		
保護者への説明	⑩	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	4					運営規定や利用者負担等について契約時保護者の方がわかりやすく説明できるように努めていきたいと思っています。
	⑪	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	4					

明等	⑫	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか	1	1		2	現状児童に対しての療育になっている為今後はFB時や必要においてペアトレが行えるよう整えていきます。
	⑬	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	3	1			今後は保護者の方とお話しする機会を作りながら児童について共通理解ができるようにしていきます。
	⑭	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	4				利用児童の数が増えても話を聞いてほしい。
	⑮	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか		1	1	2	ママカフェやキラカフェの実施ができるよう準備を進めます。
	⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	4				聞き取りが丁寧で安心しています。
	⑰	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	4				
	⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	2			2	HP、ブログなどのQRコードを作成し見やすい位置に設置させていただきます。
	⑲	個人情報の取扱いに十分注意されているか	4				
非常時等の対応	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	3			1	マニュアル類は掲示ファイルに入れさせてもらっていますのでいつでもご覧ください。
	㉑	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	3			1	避難訓練では利用児童も含めて今後行っていく予定です。
満足度	㉒	子どもは通所を楽しみにしているか	4				
	㉓	事業所の支援に満足しているか	4				家では見せない姿を見せてくれる為満足しています。

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。